

発行元  
東京新聞  
南千住専売所  
TEL3803-1781  
発行責任者  
鬼塚 佳代子  
TEL090-2657-0300

# すまいるたん



第71号  
平成20年  
5月23日

自分たちの手で  
できることから  
荒川明るい社会づくりの会



「自分達ができることを無理なく  
楽しく皆でやりたい」

荒川明るい社会づくりの会は、500名弱の会員がいる26年の歴史を持つボランティア団体です。区内の清掃・歩け歩け会・チャリティカラオケ大会・子供と一緒にふれあいアドベンチャー・環境や介護の勉強会、更に「アフリカへ毛布をおくる運動」の協力団体としても活動しています。

「一人だとできないことも皆でやると短時間で終わる、無理せずにできる範囲で」  
また、入学式に正門に立ち交通安全の標語入りの鉛筆と折鶴を荒川区内の全新入学児童に配布しています。

アフリカへ毛布をおくる運動をご存知ですか。(4月1日～5月31日)

アフリカは、暑いというイメージがありますが「日中40度、朝晩3度」という激しい寒暖の差があり、冬は極寒という厳しい気候です。また、アフリカの人々は貧困や自然災害、部族間の抗争など、厳しい状況に置かれています。

一枚の毛布が命をつなぐ力になる。  
寒さから身を守ることは命を守る意味

を持ちます。1枚の毛布が日除けに防寒に傘に、乳児のお包みに、床の敷物にもとその用途は多岐にわたります。

1984年に起きたアフリカでの大干ばつに對して当時のユニセフ事務局長の呼びかけで、日本には100万枚の要請があり、森繁久彌氏を会長とした「アフリカへ毛布を送る会」が発足しました。その結果、日本全国から171万枚以上の毛布が寄せられてアフリカの国々へ届けられました。翌年にこの会は解散しましたが、その後いくつかの団体が合同事業として「アフリカへ毛布をおくる運動」を発足させ、活動を続けています。荒川明るい社会づくりの会も毎年5月の第3日曜日に荒川区役所にて毛布を集めています。

「手配りしたチラシを見て江戸川から4枚も毛布を持って着てくださった方がいました。」4代目会長の富里美砂子さんが笑顔で話されています。

「物を贈るだけでなく、心も贈りたい」

届けられた130枚近くの毛布に会員の方達が手書きで書いた「WE ARE ONE FAMILY」(私たちは一つの家族)など平和を祈るメッセージを一针縫い付けていました。1枚の毛布の輸送には90円かかり、海上輸送で約1ヶ月さらに1～2ヶ月の内陸輸送を経て、エチオピア・マラウイ・ウガンダ・ジブ

チ・モザンビークなど各国の難民キャンプや各家庭へ届けられる毛布、このメッセージを見て特に子供達は比べあつて喜んでいそうです。

「住みよい明るい町を自分たちの手でできることから作り出そう」

会員さん達は高齢者の方も多く、自分のペースで無理なく活動に参加されます。会員にならなくても、会の活動に参加はできます。イキイキした自分を作ることのできる会です。ご連絡下さい。ちよつとだけ社会貢献してみませんか。

◇アフリカへ毛布をおくる運動◇  
不要不急の毛布がありましたらご提供ください。※毛布の受付は25日締め切り  
ただし、次のような毛布はご遠慮ください。

- ◆穴があいたり破れている毛布
- ◆綿毛布やベビー毛布
- ◆毛布以外のもの(古着、こたつ掛け布団など)
- ◆使用された毛布は洗濯をお願いします

推進委員会事務局

荒川区東尾久1-5-24

TEL (3895) 5979

TEL 0570 (064) 408

☆荒川明るい社会づくりの会  
TEL 3895-3166  
Fax 3819-4010

